京都芸術センター通信

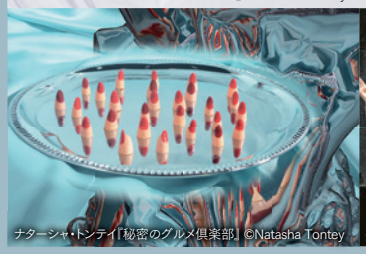
KYOTO ART CENTER 京都芸術センター

MARCH 2021
VOL.250
03

発行：京都芸術センター　2021年2月20日

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
当面の間20:00に閉館します。

ナターシャ・トンテイ『秘密のグルメ倶楽部』©Natasha Tontey



ナターシャ・トンテイ『秘密のグルメ倶楽部』©Natasha Tontey

ベント（ベルギー）での上演（2019）　photo by Michiel Devijver

撮影：岩本順平

KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭 2021 SPRING

毎年秋に京都にて開催する国際舞台芸術フェスティバル「KYOTO EXPERIMENT」。
今年度は新型コロナウイルスの影響で時期を2月～3月に変更して開催します。
これまでも国内のみならず世界各国から最先端の作品を紹介し、さらに、そこに集う人々の交流を促進してきました。
危機的な状況だからこそ、次代を切り拓く新たなヴィジョンを創造しうる作品を通じた開かれた場をつくりだします。
今回京都芸術センターで公演する3つの作品についてご紹介します。

ナターシャ・トンテイ
『秘密のグルメ倶楽部』

「秘密の」というタイトルが示すように、本作品ではパフォーマーらが怪しげなディナーテーブルを囲みます。サーブされるのは、脳みそプディングや髪の毛キャンディなど、口に運ぶのがためらわれるようなメニューたち。カニバリズムや食人というと、未開の地の理解しがたい風習だとして植民地主義的視線の中で語られたり、オカルトや禁忌として扱われることが多いですが、これをナターシャ・トンテイは自食作用の延長として冷静に、しかしあくまでフィクションの中でポップに描きます。

私たちは生きるために毎日、動植物の命をいただきますが、人間の過剰消費は生態系の崩れや地球温暖化につながっています。一方でそうした問題があることを知りながらも、人類は食べることの根本的な変革を避けてきました。選択肢には本来なり得ない社会的タブーをひとつのモチーフとすることによって、「食べる」ということの問題を新鮮に投げかけます。

本作は元々、観客に実際にディナーコースを振る舞うライブパフォーマンスを予定しており、日本の旬の野菜などを使用したメニューを考案していました。しかし感染症の拡大に伴う渡航制限により、最終的には京都芸術センターの制作室を丸々一部屋使用したインスタレーション作品と、その中で上映する映像作品を新たに制作することになりました。トンテイは刻々と変化する状況に合わせ、常に遊び心を持ってその時々に可能な最高の表現を模索し、フィクションの世界を出現させて観客をそこへ誘い込むための工夫を重ねています。トンテイはこれまでの作品でも、あえて恐怖心を煽ったり一見突拍子もない設定を提示してきました。あり得たかもしれない悪夢に観客は迷い込み、得体の知れなさをいぶかしみ不安を覚えると同時に、ひるがえって自らの日常的な行為や嗜好を見つめ直すきっかけとなることでしょう。どんな世界が待ち構えているか、楽しみに会場へいらしてください！

Profile

ナターシャ・トンテイ（Natasha Tontey）
アーティスト、グラフィックデザイナー。ジョグジャカルタを拠点に活動。フィクションの概念を思索の手法として探求する作品を制作する。こうした手法により「捏造された恐怖」にまつわる歴史や神話の虚構に光を当て、それらがどのように未来への期待を規定するかを探る。黄金町バザール（2015）、ザ・インストゥルメント・ビルダーズ・プロジェクト・キョウト—循環するエコー（2018）など多数で作品を発表。2019年 ArtJog MMXIX にてYoung Artist Award受賞。トランスメディアーレ2021のMartin Roth Initiative Virtual Residencyに選ばれている。

ナターシャ・トンテイ『秘密のグルメ倶楽部』
日時：3月9日（火）－14日（日）
【展示】10:00－16:00
※会期中無休、入場無料、予約不要
【上映】17:00／19:00 ※時間が変更になりました
会場：制作室1

中間アヤカ&コレオグラフィ『フリーウェイ・ダンス』
日時：3月19日（金）－21日（日）15:00－19:00
※入退場自由
※20日のポスト・パフォーマンス・トークは上演中のアーティストトークに変更になりました
会場：講堂
制作・製作：NPO法人 DANCE BOX

ママリアン・ダイビング・リフレックス／ダレン・オドネル『私がこれまでに体験したセックスのすべて』
日時：3月26日（金）19:00、27日（土）17:00★
28日（日）17:00＊
★ポストパフォーマンストークあり
＊託児あり
会場：講堂
鑑賞サポート：車椅子席、補助犬利用、日本語／英語字幕、舞台上手話通訳、日本語音声ガイド、介助者1名無料
企画・制作：株式会社precog
共催：日本財団DIVERSITY IN THE ARTS
株式会社precog
※本公演はカナダ・カウンシルとオンタリオ・アーツカウンシル・ツアープログラムからの助成を受けて実施しています
※本作は2021年4月8日（木）－11日（日）に「True Colors Festival －超ダイバーシティ芸術祭－」（会場：東京都内）でも上演されます

主催：KYOTO EXPERIMENT
※P2・4もご覧ください

EVENT CALENDAR

2021.03

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、
TEL、FAXで事前にお申込ください。
チケット窓口でも受け付けます。※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示
なお、新型コロナウイルスの影響により予定が変更になる場合がございます。
最新情報はWEBでご確認ください。

略称

日 …… 日時　場 …… 会場　席 …… 席主　出 …… 出演、出展
演 …… 演目、曲目　料 …… 料金　定 …… 定員　主 …… 主催
共 …… 共催　問 …… 問合せ　対 …… 対象

アイコン

美術　音楽　ダンス　演劇

※2/15時点での情報を掲載しています。開催状況はウェブサイトにてご確認ください。

2/20 sat. – 4/4 sun.

Co-program2020カテゴリーB 採択企画
黒田大スケ『未然のライシテ、どげざの目線』
日2月20日（土）－4月4日（日）10:00－20:00 ※3月1日（月）休廊 ※入場無料 場ギャラリー北・南 ほか 出黒田大スケ 主黒田大スケ、京都芸術センター

3/1 mon.

休館日

3/11 thu. – 12 fri.

Co-program 2020 カテゴリーD「KACセレクション」採択企画
KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2020
日3月11日（木）17:00、12日（金）15:00 場講堂およびオンライン ほか 料前売一般2,000円 ※当日は500円増 オンライン視聴1,000円（各日）

3/13 sat.

明倫レコード倶楽部［其ノ74］ 三大欲求の会「眠」
日3月13日（土）15:00－17:00 場講堂 ●講師：いしいしんじ 料無料 ※定員に達したため、予約受付を終了しました

KYOTO EXPERIMENT
京都国際舞台芸術祭2021 SPRING

3/9 tue. – 14 sun.

ナターシャ・トンテイ『秘密のグルメ倶楽部』
日3月9日（火）－14日（日）【展示】10:00－16:00（無料・予約不要）【上映会】17:00／19:00（全日程） 場制作室1 料一般1,500円／U25・学生1,000円／高校生以下500円、ペアなし

3/19 fri. – 21 sun.

中間アヤカ＆コレオグラフィ『フリーウェイ・ダンス』
日3月19日（金）－21日（日）15:00 ※20日のポスト・パフォーマンス・トークは上演中のアーティストトークに変更しました 場講堂

3/26 fri. – 28 sun.

ママリアン・ダイビング・リフレックス／ダレン・オドネル『私がこれまでに体験したセックスのすべて』
日3月26日（金）19:00、27日（土）、28日（日）17:00 ※27日ポスト・パフォーマンス・トーク、28日託児あり 場講堂

料前売一般3,000円／U25・学生2,500円／高校生以下1,000円／ペア（前売のみ）5,500円 ※当日各500円増（高校生以下は同額）

※P1・4もご覧ください

図書室休室日：3月31日（水）

TICKET ［チケット］

第261回市民狂言会
日3月5日（金）開場18:00、開演19:00 場京都観世会館（左京区） 演節分、磁石、小舞（雪山、吉の葉、七つに成る子）、縄綯 出茂山七五三、あきら、千五郎、宗彦ほか 料前売3,000円／当日3,500円 ※全席指定 ●チケット取扱：京都芸術センター、チケットぴあ（Pコード：502-353） 主京都市

制作支援事業（制作室使用者による公演・展覧会）

劇団飛び道具『アルト 三鈴小学校編』
子供が生まれなくなる病が蔓延して20年。閉塞した社会に生きる人々の葛藤を描く。
日3月12日（金）19:00、13日（土）13:00／17:00、14日（日）12:00／16:00 場アトリエ S-pace（大阪市城東区） 料2,500円（前売・当日共） 問劇団飛び道具 E-mail：tobidougu.jp@gmail.com WEB：http://tobidougu.jp

夕暮れ社 弱男ユニット<青春謳歌劇 II>トライアル公演『一本のギター（仮）』
ギターをかき鳴らし若者の思いを語る演劇〈青春謳歌劇〉シリーズ、第2弾。
日3月27日（土）18:45、28日（日）14:00、29日（月）15:00 場京都市東山青少年活動センター 創造活動室（東山区） 料一般2,500円／U25 1,500円（当日は各500円増）、配信1,500円 問夕暮れ社 弱男ユニット TEL：090-9696-4946（マエダ） E-mail：yowaotoko_unit@yahoo.co.jp

OPEN CALL ［募集］

第44期制作室使用者募集
若手芸術家の活発な創作活動を支援するため、造形及び舞台・音楽作品の制作を行う「制作室」（全12室）を提供します。
●使用期間：2021年10月1日（金）－2022年3月31日（木） ●条件：1申請につき使用期間は最大3ヶ月、制作した作品を発表する具体的な計画があることなど ●選考方法：専門家等で構成する委員会で審査を行います。審査結果に基づき、京都芸術センターで、使用する日時・制作室を調整します。●応募方法：京都芸術センターウェブサイト（https://www.kac.or.jp/program/21908/）の募集要項をよく読み、応募書類をメールにて提出してください ●募集期間：3月1日（月）－31日（水）23:59 問京都芸術センター制作室担当 E-mail：studio@kac.or.jp

京都国際ダンスワークショップフェスティバル2021受講者募集
「京都の暑い夏」という通称で親しまれている、日本最大級のダンスワークショップフェスティバル。国際的に活躍するダンサーや振付家を講師に招き、ビギナーからプロまで様々なレベルを対象とするワークショップを行います。今年は英語で履歴書を書くダンサー向けの座学講座や、京都府外や国外に拠点を置く講師によるZOOM中継クラスなども開催します。移動が制限される難しい状況下ですが、ダンスを続けるための場を模索していきます。
日4月26日（月）－5月5日（水・祝） ※4月30日（金）はビギナー・クラス以外は休み 場講堂、オンラインほか 主京都芸術センター、一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント
※各クラスの詳細と日程、料金、申込方法については、特設ウェブサイトをご覧ください https://hotsummerkyoto.com/lp/idwf2021/

①［対面クラス］
講師、受講生ともに会場（京都芸術センター内）に集まって開催します。
●講師：児玉北斗、坂本公成＋森裕子、寺田みさこ、野村香子、東野祥子、森井淳、山下残、渡邊尚

②［ZOOM中継クラス］
受講生が会場に集まって、オンラインで映像をスクリーンに投射された講師から指導を受けます。
●講師：イスマエラ、フランチェスコ・スカベッタ、アマンダ・ミラー、カティア・ムストネン、エリック・ラムルー

③［完全オンラインクラス］
講師・受講生ともにそれぞれの場所からオンラインにて参加します。※通信料や会場などは受講生ご自身でご準備ください。
●講師：秋津さやか、イスマエラ、島田櫻、山田知世、渡邊尚

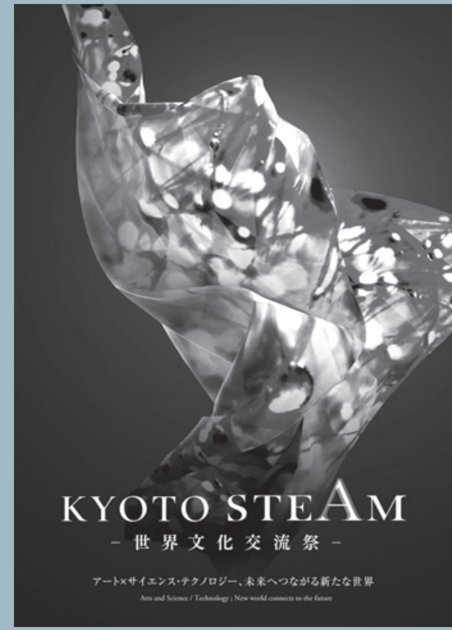
過去のフェスティバルの様子

KYOTO STEAM－世界文化交流祭－ 2022 prologue

“アート×サイエンス・テクノロジー”をテーマとする「KYOTO STEAM－世界文化交流祭－」では、2022年度開催するフェスティバルに向けたプレ事業を今年3月に開催します。

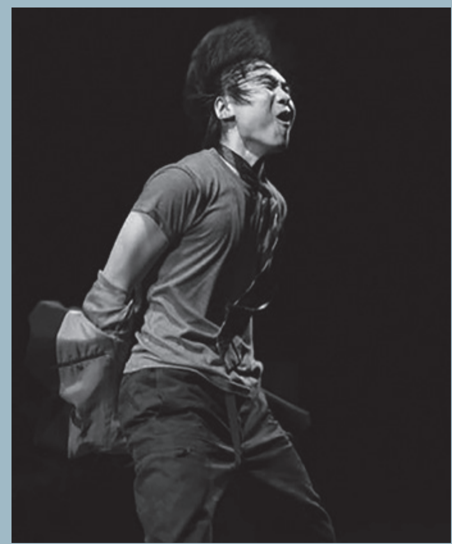
アーティストと京都市動物園の研究者らが協働して、アートを用いた環境エンリッチメントの開発を目指すプロジェクト「アート×サイエンス IN 京都市動物園 アートで感じる?チンパンジーの気持ち」をはじめ、平安時代に編纂された今様集『梁塵秘抄』をモチーフに京都ならではのサーカス系パフォーマンスを創作する「古典文学×伝統芸能×新技術 梁塵秘抄 2021 cirque de kyoto」、京都で収録した梵鐘の響きと電子音楽やデジタルアートを融合させ、平安京のサウンドスケープ（音風景）を創造する「NAQUYO－平安京の幻視宇宙－ KYOTO STEAM in collaboration with MUTEK.JP」など、多彩なプログラムを実施します。どうぞご期待ください。

KYOTO STEAM－世界文化交流祭－ 2022 prologue
日3月20日（土・祝）－28日（日） 料無料（一部有料）
場京都市動物園、ロームシアター京都、岡崎公園
主KYOTO STEAM－世界文化交流祭－実行委員会
※各プログラムの詳細につきましては、KYOTO STEAM－世界文化交流祭－ウェブサイト（https://kyoto-steam.com/）をご覧ください。
※京都芸術センターを運営する（公財）京都市芸術文化協会は、KYOTO STEAM－世界文化交流祭－の参画団体です。



「おうちでアートやってみよう」と京都新聞「ジュニアタイムズ」のコラボレーション

畑中良太「身体（からだ）とコトバで遊ぼう-部屋をのりこえるダンス-」


撮影：高田晴菜

2020年春より始動した「おうちでアート」では、おうちでもアートができる!子どもを含めた家族みんなでアートを一緒に楽しめる!をコンセプトにこれまで、市川まやによるダンス、福永祐美による音遊びなどの映像コンテンツを制作・配信してきました。

今回は、ダンサー・畑中良太を迎えてのダンス動画を2回にわたり京都芸術センターYouTubeチャンネルで配信します。畑中は、京都新聞社の子どもむけ新聞「ジュニアタイムズ」（毎週日曜日発刊）に掲載されている子どもたちの俳句から「体に響く」ものを選びとり、ダンスを創作します。前編の動画では、季節・内容もバラバラの10句から1つの流れのあるダンスをつくりあげ、後編では1句からイメージを喚起させ、「部屋の中にとどまらないような」「想像力で遠くまで行けるような」「空間で遊んでいるような」ダンスを、丁寧に立ち上げていきます。

Profile

畑中良太（はたなか・りょうた）
ダンサー。1996年京都生まれ。京都芸術大学（旧・京都造形芸術大学）舞台芸術学科卒業。舞踏への興味から在学中にダンスを始め、太極拳も習う。近年の出演公演として、山下残『インヴィテーション』（THEATRE E9 KYOTO、2020）、neji&co.「Sign」（THEATRE E9 KYOTO、2020）など多数。

おうちでアートやってみよう
畑中良太「身体とコトバで遊ぼう－部屋をのりこえるダンス－」
日3月29日（月）から前編を、31日（水）から後編を配信開始 場京都芸術センター公式YouTubeチャンネル
※詳細はウェブサイトをご覧ください。
※おうちでアートやってみようの配信動画は右記QRコードからアクセスください。

Co-program 2020 カテゴリーD「KACセレクション」採択企画

KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2020

―若手振付家によるダンス公演&作品を巡るディスカッション―

JCDN（NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク）ではこれまでコンテンポラリーダンスの振付家育成を目指してきました。今回、振付家を目指す若手アーティストの次なるステップとなることを目的に「KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD2020」を新たに創設、開催します。

全国55組の応募の中から、書類選考を経て選出された6組が、京都芸術センターで2日間に分けて上演します。それぞれの上演後には観客と共にディスカッションを行い、最終日には各賞の授与式を行います。

また「KYOTO Meeting 2020」と題し、国内の「ダンスでいこう!! 2020」各会場で実施された振付家育成プログラムの報告会とダンスミーティングも開催します。

伝統と革新の融合する京都という土地において開催されるアワードを通じて、次代をになう振付家を発掘することを目指します。またこうした機会が全国的にあることで若手アーティストらの刺激となることでしょう。当日は観客による投票も実施！ あなたの一票が振付家の未来を拓きます。ぜひ、ご参加ください。

Co-program 2020 カテゴリーD「KACセレクション」採択企画
KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD 2020 ―若手振付家によるダンス公演＆作品を巡るディスカッション―
日3月11日（木）17:00、12日（金）15:00（開場は開演の30分前） 場講堂およびオンラインほか 料前売一般2,000円 ※当日は500円増 オンライン視聴1,000円（各日） 主文化庁（文化庁委託事業「令和2年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」）／NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN） 共京都芸術センターほか
※P2もご覧ください

中間アヤカ＆コレオグラフィ

『フリーウェイ・ダンス』

舞台も客席も存在しない、造園された庭の中で立ち上がるダンス公演。
記憶をもとに振付に挑戦する中間アヤカが、神戸、横浜での上演を経て、京都公演で再創作を行います。

本作は中間が自身の家族や友人に取材を行い、彼らの「初めて踊った(身体がダンスした)時の記憶」を集めることから始まりました。他者の記憶をもとにあたかも振付家から教わったように自分の体を動かすことを、中間は「記憶に振り付けられる」と呼び、そこに立ち現れるダンス作品を『フリーウェイ・ダンス』と呼んでいます。今回京都では新たな振付とクリエイションメンバーによる再構築を試みます。公演に向けて準備中の中間さんに話を伺いました。

撮影：前澤秀登

――京都公演で再創作するにあたり挑戦していることを教えてください。

一般的に、ダンス作品の再演やリクリエイションをする場合、初演とは違うダンサーが演じることは珍しくありませんが、『フリーウェイ・ダンス』ではダンサーはそのままで、「振付家(記憶の提供者)」が代わります。ダンサーとして国内外様々な作品に参加してきましたが、そうした作品には出会ったことがないため、手探りで稽古を進めています。また、今回は新たにエキストラダンサーの方々にも参加していただきます。彼らと共に、ソロダンスの枠組みを拡張するような仕掛けも考えています。

――中間さんにとって今回の作品はどのような存在ですか。

この作品は神戸で生まれ、シカゴ、横浜、そして京都までやってきました。リサーチやクリエイションの過程も含め、これまで多くの人を巻き込みながらなんとか立ち上げてきました。抽象的な表現ですが、これまでの『フリーウェイ・ダンス』は自分にとってアイデアを自由に実現できるユートピアのような存在でした。今回は対照的に、現在における自分の力ではどうすることもできない制約の中で創作を行うことになりました。

今感じている不自由さをポジティブにとらえ直すというよりは、不自由さに抗う『フリーウェイ・ダンス』のありのまま姿を目撃してもらいたいと思っています。

Profile

中間アヤカ（なかま・あやか）
ダンサー。1992年大分県生まれ、神戸在住。Rambert School of Ballet and Contemporary Dance（ロンドン）を卒業後、「国内ダンス留学@神戸」1期に奨学生として参加、ダンサー奨励賞受賞。2018年度よりDance Boxアソシエイト・アーティスト。2019年にDance Boxプロデュースにより『フリーウェイ・ダンス』を発表。

ママリアン・ダイビング・リフレックス／ダレン・オドネル

『私がこれまでに体験したセックスのすべて』

（原題：All The Sex I've Ever Had）

シニアたちが「性」の経験を語るドキュメンタリー演劇。
社会の鍼治療(Social Acupuncture)と称されるママリアンが
世界各国でクリエイションしてきた作品が満を持して日本版初上演！

オースティン(アメリカ)での上演(2018)　photo by Christopher Shea

祖父母などから昔話(個人史)を聞いた経験は多くの人にあるでしょう。では、「性」についての話はどうでしょうか。

本作は既に世界各地で上演されていますが、出演者は「セックスの話を聞かせてくれませんか?」という呼びかけに各都市で集まった、演技経験のない60歳以上のシニア世代たちです。ママリアン・ダイビング・リフレックスと約1カ月間にわたってワークショップやインタビューを行ってきました。彼らとの対話のなかで浮かび上がった個人史をもとに脚本が制作され、パフォーマーは自身のリアルな気持ちを自らの言葉でオープンに語り、観客に問いかけます。

また、会場ではシンガーソングライター・入江陽セレクトによる年代ごとの流行歌や出演者の思い出の曲が鳴り響き、そこで巻き起こる対話を盛り上げます。

パーソナルな「セックス」の話を公の場で、観客を介入させて対話するという、居心地の悪さやストレスをかけた"ソーシャル・スペシフィック"な演出は、無意識に、あるいは意識的に避けがちな視点に気づかされ、寛容な気持ちを思い出させてくれることでしょう。社会的背景の異なる人々を題材に数々の作品を制作してきたカンパニーが贈る、日本版オリジナル作品の京都初上演を、お見逃しなく！

本公演では、障害のある方もない方も体験を共有できる場づくりを目指し、補助犬利用や音声ガイド、舞台上での手話通訳などの鑑賞サポートを行っています。ぜひご利用ください。

Profile

ママリアン・ダイビング・リフレックス
(Mammalian Diving Reflex)
ダレン・オドネルを中心として1993年にトロントで設立されたアート＆リサーチ集団。学校や老人ホーム、地域組織、アート・フェスティバル等と連携し、観客ー素材ー演技者の対話を促進した作品を82都市、27ヶ国以上で上演してきた。

ダレン・オドネル（Darren O'Donnell）
1965年カナダ出身。作家、脚本家、パフォーマンス・アーティスト。都市計画の学位を持ちユニークなアート表現で国籍、言語、世代や立場を越えた人々との創作を続ける。ヨーロッパ最大規模の芸術祭ルール・トリエンナーレで教育普及プログラムを担当。

入江陽（いりえ・よう）
1987年新宿区大久保生まれ。シンガーソングライター、映画音楽家、文筆家、プロデューサー。映画音楽は「街の上で」「タイトル、拒絶」など。「装苑」「ミュージック・マガジン」で連載。

We Age!
KYOTO ART CENTER
2020th ANNIVERSARY
京都芸術センター
Since 2000

京都芸術センターは、
2020年4月に開設20周年を迎えました！
テーマは"We Age"
（ウィー・エイジ）

20 YEARS ANNIVERSARY PROJECT KYOTO ART CENTER We Age 2020

（ロゴデザイン：松本久木）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当面の間 20:00 に閉館します。
最新情報はウェブサイトでご確認ください。

公式ウェブサイト | https://www.kac.or.jp

kyotoartcenter
@Kyoto_artcenter
@kyotoartcenter
KYOTO ART CENTER 京都芸術センター

20周年記念グッズ紹介

京都芸術センター開設 20 周年を記念し、オリジナルグッズを作成しました。
窓口にて販売しておりますので、お手に取ってご覧ください。

- ステッカー…200円
- ノート…400円
- [数量限定]ピンバッジ…1,300円
- 風呂敷(赤・青)…1,200円

※すべて税込

販売：京都芸術センター窓口
（10:00－20:00）

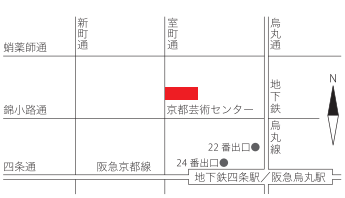
京都芸術センター
KYOTO ART CENTER

交通案内
- 市営地下鉄烏丸線「四条」駅／阪急京都線「烏丸」駅 22番出口・24番出口より徒歩5分。
- 市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間
- ギャラリー・図書室・情報コーナー・チケット窓口　10:00－20:00
- カフェ　10:00－20:00
- 制作室、事務室　10:00－22:00

※開館・閉館時間はウェブサイトでご確認ください。

休館日　12月28日から1月4日
※設備点検のため臨時休館することがあります。



〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000　FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp

指定管理者：公益財団法人京都市芸術文化協会